

「人権教育研究指定校事業」事業実施報告書

研究指定校名 : 米子市立尚徳中学校

1. 学校の概要

学校名	米子市立尚徳中学校
学級数	12学級（うち特別支援学級：3学級）
児童生徒数	全生徒数：286人（平成30年1月25日現在）
URL	http://www.torikyo.ed.jp/syotoku-j/

2. 調査研究のテーマ

(1) 調査研究のテーマ

【中学校区研究主題】豊かな人間関係を築き、主体的に学び合い高め合う子どもの育成
～連携を重視した魅力ある校区づくりをめざして～

【本校研究主題】学び合い、語り、つながる生徒の育成
～仲間とともに主体的に高め合う活動を通して～

(2) 調査研究のテーマを設定した背景

本中学校区では、平成24・25年度に、「魅力ある学校づくり調査研究事業」（国立教育政策研究所）、平成26・27年度には、「小中連携で取り組む授業改善ステップアップ事業」（鳥取県）の指定を受け、すべての児童生徒を対象として、自尊感情を高めるための授業づくりや集団づくりを中心に、1中学校と3小学校（五千石・成実・尚徳）が連携しながら取り組んできた。研究指定は終わったが、この趣旨に基づき、平成28年度も引き続き仲間づくりを基盤とした研究を進めてきた。また中学校区では平成24年度から「自尊感情アンケート」を実施し、児童生徒の実態把握に努めてきた。そのアンケートの結果から校区で「計画を立てて、進んで家庭学習をする」「授業に主体的に取り組んでいる」という項目に課題があることが明らかになった。

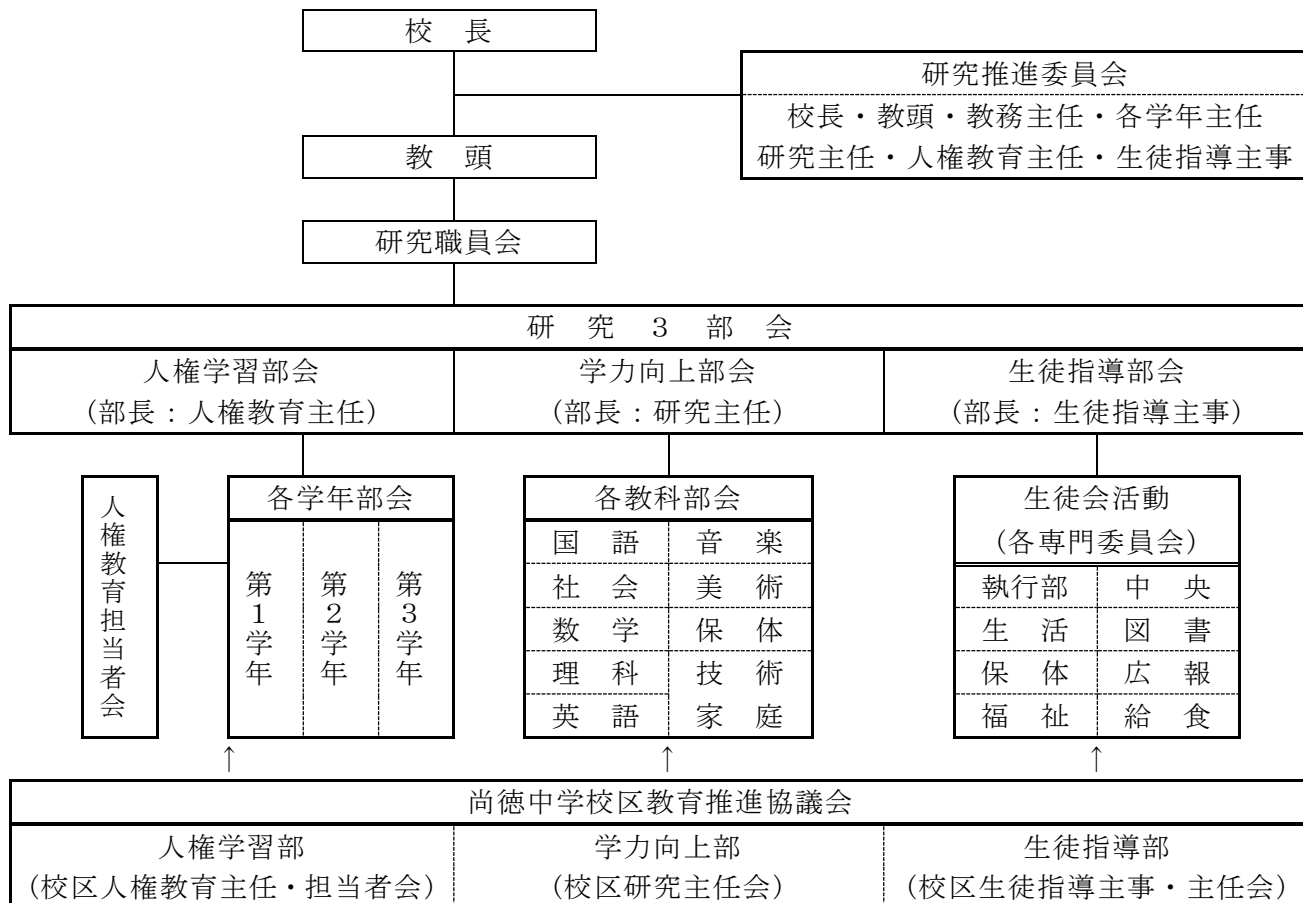
本校の生徒は、明るく素直であり、行事や生徒会活動に対する取組においても、自主性や積極性を発揮し、友達と協力して活発に活動している。しかし一方で、自分の考えや思いを相手に伝えることが苦手な生徒が多く、中学校に入学してから新しい人間関係をうまく構築できずにいる生徒もいる。また、厳しい生活環境のため自尊感情が育っていないと思われる生徒もおり、自分や他者を大切にすることができずに不登校や問題行動という形でそのストレスを表面化させることもあった。

学習面においては、全体的には落ち着いた態度で学習を行っている。しかし、与えられた課題には一生懸命取り組むが、自ら進んで主体的に学習に取り組む姿勢に欠け、学習意欲や基礎学力の低さのため学びから逃げる生徒もいるなど自分に自信が持てず自尊感情の低下につながっていると考えた。

校区及び本校の課題から、①「自己についての肯定的態度」（自尊感情）、②「他者の痛みや感情を共感的に受容できるための想像力や感受性」、③「能動的な傾聴、適切な自己表現を可能とするコミュニケーション技能」を学校の教育活動全体を通して育てていくこととした。

また、本校における課題は中学校だけの問題ではなく、小学校段階から起因する場合も多くあるため、校区の各小学校と連携しながら義務教育9年間を見通した教育活動を行うことが必要であり、中学校区の連携を図りながら、「仲間とともに主体的に高め合う活動を通して、学び合い、語り、つながる生徒の育成」に努めていった。

3. 調査研究の推進体制



【関係協力機関】

- 鳥取県教育委員会 ○米子市教育委員会
- 米子市人権・同和教育推進協議会学校教育部会
- 尚徳中学校区人権・同和教育推進協議会

4. 調査研究の内容等

(1) 調査研究の内容・実施日程

【人権学習部会】

- 社会的立場の自覚を深め、思いを伝え合う人権学習の推進
- ・人権学習授業研究会の充実

昨年度の人権学習に関する生徒意識調査の中にある「人権学習をしてきて、自分のためになったと感じたことがありますか」との間に、否定的な意見の割合（あまり感じたことがない＋まったく感じない）が全体の11%もあった。「人権学習は自分のためにならない」という生徒の意識を変えていくために人権学習の充実に努めた。

7月13日（木）には、各学年1クラスずつ授業を公開し、県・市教育委員会から指導助言者を招いて授業研究会を行った。各学年、ジグソー法等の活動を取り入れながら、生徒のつぶやきや意見を大切に、学習を進めていった。

- ほめ合い、認め合う場の設定（終わりの会）

- ・今日のキラリ

終わりの会の「班の一日のふり返り」のなかで、班内



でがんばっていた人や支えてくれた人など、その日キラリと輝いていた人やその行動を、お互いに認め合う活動（今日のキラリ）を行った。活動のマンネリ化が課題だったが、今年度は各学年でやり方を工夫し、取り組むことができた。

【学力向上部会】

○「協力・参加・体験」を中核に据えた仲間とともに主体的に学び合う学習活動

本校教員が年間1回以上の研究授業を行い、事後の研究協議を実施するように計画した。

授業研究会では、学びの共同体スーパーバイザーの馬場先生（元東大阪市立金岡中校長）に、6月と12月に実施した校内授業研究会において指導助言者として直接指導を受けた。

【授業づくりの視点】

「学びの共同体づくり」の理論・方法を取り入れ、仲間とともに主体的に高め合う活動を通して、「学び合い、語り、つながる生徒の育成」をめざした学習活動の展開

- ・学習のめあて・流れについて…本時の学習のめあてが明示され、生徒に学習の流れが伝わる効果的な導入
- ・課題設定について…生徒が主体的に学び、学習（教科）のねらいを達成するための「学ぶ値打ちのある課題」の設定
 - *「共有の課題」（基礎・基本、知識・理解、技能）は、きちんと共有がはかられているか。「ジャンプ課題」（応用・発展、技能、思考力・判断力・表現力）は、生徒をつなぐ課題か。
- ・学び合いについて…個々の生徒の学び(活動)や、生徒同士の学び合い(班・全体)が成立するための手立てや工夫



【生徒指導部会】

○生徒会を中心とした自尊感情を育む縦割り活動

・行事での縦割り活動

生徒会を中心として体育祭や文化祭で縦割り活動を行った。縦割り活動を通して、主体的な態度を養うとともに、達成感や成就感を味わうことができ、自尊感情を育むことができたと考えた。指導にあたっては、取組前に必ず教員の打ち合わせを行い、ねらいや方法の共通理解を図った。実際の活動においては、当日だけの活動ではなく、事前事後の取組を大切にしたり、生徒が思いを語る場面を設定したり、感謝の気持ちを伝えるメッセージ交換を行ったりした。

○小学校訪問

・小中交流会

中学校区では、3小学校の6年生がスムーズに中学校で出会い、不安なく生活を始められることを目的として、生徒会と6年生との交流会を行っている。



12月には、本校の生徒会が小学校訪問を行っている。

・4校合同交流会

2月に行われる「4校合同交流会」（新入生説明会）は、単なる中学校紹介ではなく、それぞれの小学校紹介や、尚徳中学校の研究課題である「学びの共同体」の理論を取り入れたグループ活動や、小グループに別れた意見交換を交えたグループ活動（中学校の生活について）を盛り込み、児童生徒が交流しやすい場面を設定した。

時 期	内 容	備 考
4月10日	研究推進委員会	9人
4月18日	全国学力・学習状況調査	生徒（3年）
4月19日	第1回人権教育研究推進事業連絡協議会（県教育委員会5人） 研究職員会・研究部会・学年会・担任会	2人 全職員
5月1日	自尊感情アンケート（1回目）	全校生徒
5月19日	研究職員会・研究部会・学年会	全職員
5月22日	校内授業研究会（教科） 指導助言 馬場宏明 氏（学びの共同体スーパーバイザー）	全職員
5月24日	研究推進委員会	9人
6月27日	現地研修（岡山県瀬戸内市 国立療養所長島愛生園）	2人
7月13日	校内授業研究会（人権学習） 指導助言 森田泰弘係長（県教育委員会） 金川朋史課長（米子市教育委員会） 竹本周平課長補佐（米子市教育委員会）	全職員
7月19日	学習状況アンケート（1回目） 人権教育講演会 中倉茂樹 氏（徳島県）	全校生徒 全校生徒
8月10日	現地研修（愛媛県松山市 レインボープライト愛媛）	3人
8月21日	研究推進委員会 研究職員会・研究部会・学年会 学年会（指導案検討） 指導助言 森田泰弘係長（県教育委員会） 金川朋史課長（米子市教育委員会） 竹本周平課長補佐（米子市教育委員会）	9人 全職員
9月6日	研究推進委員会	9人
9月13日	研究職員会・研究部会・学年会	全職員
9月15日	人権講演会（講師1名）	
9月26日	自尊感情アンケート（2回目）	全校生徒
10月4日	研究推進委員会	9人
10月11日	研究職員会・学年会	全職員
11月1日	研究推進委員会 人権講演会・人権学習へのゲストティーチャー ・1年生対象（講師5名） ・2年生対象（講師2名） ・3年生対象（講師2名）	9人
11月15日	研究職員会・学年会	全職員
11月26日	人権講演会 石崎杏里 氏（FRENS 代表）	
11月29日	米子市中学校区人権教育研究発表会（全学級公開） 成果刊行物配布 指導助言 森田泰弘係長（県教育委員会） 金川朋史課長（米子市教育委員会） 竹本周平課長補佐（米子市教育委員会）	100冊 配布先：市内中学校、関係機関、参加者、教育委

		員会
12月4日	学校評価アンケート	全校保護者
12月6日	学習状況アンケート（2回目）	全校生徒
12月27日	研究職員会	全職員
1月9日	研究職員会・研究部会・学年会	全職員
1月10日	研究推進委員会	9人
1月18日	米子市人権・同和教育研究集会（2分科会で発表） 指導助言 森田泰弘係長（県教育委員会） 竹本周平課長補佐（米子市教育委員会） 乗本学主幹（米子市教育委員会）	5人
1月29日	校内授業研究会（教科） 指導助言 馬場宏明氏（学びの共同体スーパーハイパー）	全職員
1月30日	自尊感情アンケート（3回目）	全校生徒
2月13日	第2回人権教育研究推進事業連絡協議会（県教育委員会8人） 人権学習に関する意識調査実施	1人 全校生徒
3月	研究推進委員会 研究職員会・学年会	9人 全職員

（２） 調査研究の成果と課題

① 取組の成果

「自尊感情アンケート」の中でも特に特徴的な質問項目「学校が楽しい」「みんなで何かするのは楽しい」「授業がよくわかる」「自分から進んで授業に取り組んでいる」について分析を行った。

表1から分かるように、質問項目の肯定的な回答の値が増加しているのが分かる。「学校が楽しい」や「みんなで何かをするのが楽しい」の項目が高い値で推移しているのは、学年・学級での「仲間づくり」の成果であり、学校全体での縦割り活動の成果であると言える。また「授業がよくわかる」や「自分から進んで授業に取り組んでいる」の値が増加しているのは、「学びの共同体」の理論のもと授業改善に取り組んできた成果であると考えられる。

【現在中学3年生のアンケートで肯定的な回答を経年比較した表】〈表1〉

〔設問〕	学 年	肯定的な回答 (%)	〔設問〕	学 年	肯定的な回答 (%)
学校が楽しい	1年(H27)	86.3	授業がよくわかる	1年(H27)	78.9
	2年(H28)	86.7		2年(H28)	84.4
	3年(H29)	91.5		3年(H29)	86.8
みんなで何かをするのは楽しい	1年(H27)	91.6	自分から進んで授業に取り組んでいる	1年(H27)	83.2
	2年(H28)	93.3		2年(H28)	90.0
	3年(H29)	94.7		3年(H29)	92.3

※肯定的な回答・・・「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」の合計の割合

② 取組の課題

表2から分かるように「計画を立て、自ら進んで家庭学習をする」の項目は、低い値で推移している。その理由として、本校区では携帯電話やインターネットの利用率が高く、それらを使用する時間が多くなったことで、家庭での学習習慣が定着していなかったと考えられる。メディアコントロール等の取組により、基本的な生活習慣の見直しを行い、家庭学習の充実を図った結果、若干ではあるが値も上昇してきている。しかし、依然として低い値であり、今後も課題として受け止め引き続き取り組んでいきたいと考えている。

【現在中学3年生のアンケートで肯定的な回答を経年比較した表】〈表2〉

〔設問〕	学 年	肯定的な回答(%)
計画を立て、自ら進んで家庭学習をする	1年(H27)	58.9
	2年(H28)	57.8
	3年(H29)	72.3

※肯定的な回答・・・「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」の合計の割合

③ 各専門3部会の成果と課題

3部会の具体的な成果と課題は以下のとおりである。(成果：○、課題：●)

【人権学習部】

- 研修・視察等を行い、様々な人権課題についての最新の情報や実践について学んだことを、人権学習に生かすことができた。
- 「縦割りミーティング」の時間を多く持ったので、学年間で教え合う姿が多く見られた。認め合い活動も各学年で工夫し行うことができた。
- 縦割り活動がより効果的になるよう、教育活動中での位置づけや取組の充実化を図る必要がある。
- 生徒同士の話し合いを深めていくためにも、進行役等のスキルアップが必要だと感じる。

【学力向上部】

- 授業に落ち着いて取り組める生徒が大幅に増えたこと、学習内容を理解できると肯定的に回答する生徒が8割以上になったことなど、多くの成果が出ていることから、「学びの共同体」理論・手法にもとづいた授業づくりは本校の諸課題の解決につながるものと考えている。
- 平成29年度の全国学力・学習状況調査の結果では、国語、数学のA問題、B問題ともに3ポイント以上下回った。個々の生徒の学力をさらに向上させる手立てが必要である。そのためには、「共有の課題」[ジャンプ課題]が学ぶべき価値のある課題設定になっているのかの吟味が必要である。また、とっとりの授業改善【10の視点】の中の、「⑦学習評価の推進」と「⑧学習活動を振り返る活動の設定」の視点が特に重要であると考えている。

【生徒指導部】

- 小学校訪問から始まる6年生対象の交流は、数年来の取組であるので各校の準備などは円滑に行うことができている。その中でも、4校合同交流会での学校紹介では、各校の特色が見える活動になっている。また、交流授業やグループ活動などでも小学生同士の交流もみられるようになってきた。これらの活動を生徒会執行部が中心となり取り組んでいることにより、小学生の中には、中学生の姿を目標とするとともに、生徒会活動に興味を持って入学してくる新入生もおり、これらの生徒が次の生徒会活動の中心となり今後の活動を引き継いでくれると考えている。
- メディアコントロールカードの分析を行うことにより、生徒の家庭での活動が見え始めた。例えば、就寝時間・学習時間・メディア時間の3つを組み合わせると、生徒は同時に2つ以上のメディアと接している時間があったり、メディアに触れながら学習に取り組んでいる「ながら学習」の時間が多かったりするということに気付く。これら見えてきた生徒の実像と目指す生徒像とのギャップを少しでも埋めるために、個人指導の方法や、家庭学習の支援の方法を考え、定着、継続させていく必要がある。